

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成27度 高岡工芸高等学校アクションプラン - 1 -									
重点項目	学習活動								
重点課題	自ら学ぶ学習態度の育成と基礎学力の定着、わかる授業の推進。								
現 状	<ul style="list-style-type: none">各教科の授業において、自ら学習する態度に欠ける生徒がいる。各科目の授業においては、生徒の実態を踏まえながらその指導方法の工夫・改善を進めて分かりやすい授業の推進を図るとともに、生徒の自主的な学習態度の育成と学習意欲の向上を図る必要がある。中学校程度の基礎的な計算力が不足していることから、特に専門教科の授業について内容を十分理解できない生徒が多数いることから、中学校までの基礎的な計算力を確実に身に付けさせる必要がある。各種検定や資格の取得に向けた補習を実施するなどして、生徒の資格取得への積極的な取り組みを促し、自ら学習する態度の育成を図っている。								
達成目標	<table border="1"><tr><td>基礎計算力テストの実施と分析</td><td>授業の『質向上』のための授業アンケートの実施</td></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none">年2回(年度当初、年度末)、1年生全員を対象に基礎計算力テストを実施する。年度末のテストの全ての設問の正答率を70%以上とする。</td><td><ul style="list-style-type: none">担当授業の生徒に対して、年1回以上理解度アンケートを実施する。また、定着した他の教員の授業を見学する。</td></tr></table>	基礎計算力テストの実施と分析	授業の『質向上』のための授業アンケートの実施	<ul style="list-style-type: none">年2回(年度当初、年度末)、1年生全員を対象に基礎計算力テストを実施する。年度末のテストの全ての設問の正答率を70%以上とする。	<ul style="list-style-type: none">担当授業の生徒に対して、年1回以上理解度アンケートを実施する。また、定着した他の教員の授業を見学する。				
基礎計算力テストの実施と分析	授業の『質向上』のための授業アンケートの実施								
<ul style="list-style-type: none">年2回(年度当初、年度末)、1年生全員を対象に基礎計算力テストを実施する。年度末のテストの全ての設問の正答率を70%以上とする。	<ul style="list-style-type: none">担当授業の生徒に対して、年1回以上理解度アンケートを実施する。また、定着した他の教員の授業を見学する。								
方 策	<ul style="list-style-type: none">年度当初の基礎計算力テストの結果を踏まえ、正答率の低い問題について関係教科で連携し、対策を講じる。生徒に対する授業アンケートにより、生徒自身に学習態度の振り返りをさせるとともに、指導内容の理解度や意欲を把握する。これにより改善点を見つけより分かる授業へ改善する。互見授業を実施し、自身の授業を改善する。								
達成度	<ul style="list-style-type: none">基礎計算力テストは予定を含め2回実施(第1回は5月25日(月)、第2回は2月1日に実施。)授業評価は教諭60名中21名のべ53回実施(1年あたり0.88回)、したにすぎなかった。授業見学は教諭60名中36名のべ62回実施(1人あたり1.03回)した。 <p style="text-align: right;">(1月末現在)</p>								
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">基礎計算力テスト4月の基礎計算力テストの結果を踏まえ、全ての設問で70%以上の正答率をめざし、関係教科で年間計画において重点をおいて指導することとした。授業見学について、お互いに気楽に見学できる環境作りに取り組んでいる。授業評価は、授業担当者が自ら質問項目を設定して、アンケート形式で実施している。また、アンケートのひな形も提示している。								
評 価	<table border="1"><tr><td rowspan="2">C</td><td><ul style="list-style-type: none">1回目のテストでは設問6題中3題が正答率70%に達しなかった。全体の正答率は61.73%(昨年度は62.3%)であった。毎年同じ問題で正答率が低いため、関係教科科目で関連する単元等で重点指導することとした。第2回の結果を踏まえて、あらためて評価したい。</td><td>授業評価 D</td><td><ul style="list-style-type: none">授業評価票作成の負担増や実施時間の確保など、実施に対して難しい点もあり、実施率が低い。</td></tr><tr><td></td><td></td><td>授業見学 B</td><td><ul style="list-style-type: none">授業見学については、目標を達成はしたが、複数回見学した先生が多く複数名おり、実際に授業見学を行った先生は、60%だった。</td></tr></table>	C	<ul style="list-style-type: none">1回目のテストでは設問6題中3題が正答率70%に達しなかった。全体の正答率は61.73%(昨年度は62.3%)であった。毎年同じ問題で正答率が低いため、関係教科科目で関連する単元等で重点指導することとした。第2回の結果を踏まえて、あらためて評価したい。	授業評価 D	<ul style="list-style-type: none">授業評価票作成の負担増や実施時間の確保など、実施に対して難しい点もあり、実施率が低い。			授業見学 B	<ul style="list-style-type: none">授業見学については、目標を達成はしたが、複数回見学した先生が多く複数名おり、実際に授業見学を行った先生は、60%だった。
C	<ul style="list-style-type: none">1回目のテストでは設問6題中3題が正答率70%に達しなかった。全体の正答率は61.73%(昨年度は62.3%)であった。毎年同じ問題で正答率が低いため、関係教科科目で関連する単元等で重点指導することとした。第2回の結果を踏まえて、あらためて評価したい。		授業評価 D	<ul style="list-style-type: none">授業評価票作成の負担増や実施時間の確保など、実施に対して難しい点もあり、実施率が低い。					
			授業見学 B	<ul style="list-style-type: none">授業見学については、目標を達成はしたが、複数回見学した先生が多く複数名おり、実際に授業見学を行った先生は、60%だった。					
学校関係者の意見									
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none">基礎計算力テストは、設定を全ての設問で70%以上の正答率を目指すとした。ここ数年の実施データから、毎年正答率の低い問題の傾向がわかってきており、ここを重点的に指導していきたい。また第2回の結果を踏まえて、指導方法とともに、問題の改訂を検討しながら、今後も継続して行う必要がある。授業評価については、個々の先生で実施するには、難しいようなので、統一的な書式で同じ時間帯に実施する方法を考えるなどし実施率の向上を図ることが重要であると考えられる。互見授業等により教科内外で連携を図り、情報交換を密にしながら改善を進めていくことが重要である。授業見学はほとんどの先生が他の先生の授業を見学し、定着しつつある。今後も継続して取り組むとともに、より授業改善につながる方法を検討して実施率の向上を図るよう方法の見直しも必要と考える。								

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成27年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -2-			
重点項目	学校生活		
重点課題	基本的な生活習慣の形成と安全意識の向上		
現 状	<p>・昨年度、寝坊や怠惰による遅刻は226回(一人当たり年間0.28回)で前年度比でほぼ横ばいであったが、複数回遅刻している生徒が53人、のべ85回で全体の38%を占めていた。しかし1昨年の62%を大きく下回り指導の効果が少しずつ現れたように思われる。が現状、まだまだ遅刻が習慣化している生徒が見受けられるので、今後も継続的に指導していき基本的な生活習慣を身につけさせていく必要があるものと思われる。</p> <p>・交通事故に関しては、昨年度ほぼ目標を達成することができた。内訳は、5件が自転車対自転車、1件が自転車対自動車で軽微な事故がほとんどであった。しかし、意識の向上がなければいつ重大な事故に繋がるかは分からない。道路交通法の改正に伴い改めて、交通ルール徹底や危険箇所の提示などを行い、より危機管理に対する意識</p>		
達成目標	寝坊や怠惰による遅刻する生徒を減らす	登下校時の交通事故の減少	
	・1人あたり年間0.25回以下(のべ200回以下) ・複数回遅刻する生徒の減少(15人以下)	年間5件以下	
方 策	<p>・複数回の遅刻者に対して、面接指導などより効果的な指導方法の模索を行い、実践を通して生活習慣の確立を図る</p> <p>・「朝のあいさつ運動」の継続実施</p>	<p>・自動車学校から講師を招き、交通安全教室を実施し、安全意識の高揚を図り、交通ルールの理解を図る</p> <p>・自転車点検を実施し、整備された自転車で安全に通学するよう指導する</p>	
達成度	<p>・延べ遅刻回数 133回(0.16/年・人) ・複数回数遅刻者 24人(延べ50回)</p>	5件(1/20現在)	
具体的な取組状況	<p>・4月～11月・校門挨拶運動の実施 ・複数回の遅刻者に対して、面接指導などを実施し、意識改革に取り組む</p>	<p>・外部より講師を招聘し、自転車シミュレーターなどを用いた交通安全教室の実施 ・自転車点検による安全への意識の向上 ・集会等での注意喚起による交通安全の徹底</p>	
評 価	<p>B 延べ回数は目標値ほぼ達成。しかし、まだ複数回の遅刻者が多いように思われる。</p>	<p>A 自転車運転中の事故のみ5件で、目標は達成</p>	
学校関係者の意見	<p>・交通事故は1年生が多いので、1年生対象の講習を実施してはどうか ・自転車のマナーより歩きスマホなどの歩行者としてのマナー指導が必要 ・遅刻の集計を学期ごとにとって、対策を検討してはどうか ・生徒同士でのSNSの使い方について考えさせる機会を作ってはどうか</p>		
次年度へ向けての課題	<p>・「挨拶・服装・時間」を生徒指導部の3本柱として指導している。目標値はクリアしてもやはり、まだまだ時間に対する意識の向上は必要であると考えられる。今後も継続的に指導していく必要がある。また、複数回の遅刻者の中の対応が難しい生徒への指導についても、担任を中心に学校全体で取り組んでいく必要がある。</p> <p>・日頃から命の尊さ、危機管理の意識を持たせ、安全に対する意識、モラル・マナーの向上に繋がる指導をしていかなければいけないと考えられる。</p>		

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成27年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -3-			
重点項目	進路支援		
重点課題	生徒各人が、学校生活をとおり、よりよい勤労観・職業観を身につけ、主体的に進路を選択し決定できる力をはぐむ。		
現 状	・第2学年で実施しているインターンシップの生徒アンケート結果では、「進路決定に役立った」と回答した生徒の割合が、平成24年度84.7%、平成25年度88.3%、平成26年度94.5%であった。	・民間企業の就職選考試験は9月16日より開始され、今年度は約140名が民間企業への就職を希望している。 ・民間企業への就職希望者の第一次選考における不合格者数は、平成24年度19人(105/124)、平成25年度10人(136/146) 平成26年度12人(133/145)であった。	
達成目標	生徒アンケートの「進路決定に役立った」と回答する生徒の割合	就職希望者第一次選考での不合格者数(民間)	
	95%以上	10人未満	
方 策	・各学科に関連した事業所の新規開拓を行う。 ・事前指導でインターンシップの心構えや取組、実習内容について理解させ、企業について調べさせる。 ・インターンシップを通して、将来希望する職種や企業について、進路選択ができるように指導する。	・各企業が求める人物や適正など、生徒に知らせる。 ・適性検査を実施して、その結果より本人の適正、能力について、考えさせる。 ・面接時に本人の魅力や考えを伝えられるように指導する。 ・多くの先生方から面接の指導が受けられるように指導計画を組む。	
達成度	・生徒アンケートで「進路決定に役だったか」との質問に対して、大変役立った41.8%+役だった57.7%=99.5%と回答した。	・一次選考での結果 受験者 135名 内定者 127名 不合格 8名 内定率94.1%	
具体的な取組状況	・1学年末にインターンシップに関する学年集会や希望する事業所の調査を行い、早期から意識付けをした。 ・1学年末から取り組んだため、例年より早い段階で実習先が決まった。 ・専門に関係した事業所の新規開拓を行った。	・3学年生徒全員に、一般常識テスト、SPIII、クレペリン検査を実施し、就職試験への対策、意識付けをした。 ・外部講師による面接指導を実施した。 ・求人票をPDF化して、パソコンで調べられるようにした。 ・生徒が希望する企業に問い合わせを行い、求人票を提出してもらった。	
評 価	A 「進路決定に役立った」と答えた生徒が、99.5%となった	A	一次選考での不合格者数8名で目標を達成した。
学校関係者の意見			
次年度へ向けての課題	・1年の3学期の内に生徒の実習先の調整を行い、早い段階で実習先を決定する。 ・実習前に時間的な余裕を持たせ、事前指導や企業調べなどインターンシップに対する心構えや意欲の向上を図る。(今年度は、例年のように一学期期末考査直後ではなく、約一週間余裕があった、野球部の時期をずらした)	・企業が求める人材についてしっかりと把握し、3学年と進路の共通理解を深め、学校から推薦する生徒のミスマッチを低減する。 ・コミュニケーション能力不足等によって、なかなか内定を得られない生徒への適切な進路指導や面接指導の充実、強化を図る。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成27年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -4-		
重点項目	学校生活	
重点課題	学校行事および部活動の充実	
現 状	<p>・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。</p> <p>・部活動等への参加は活発で、年度当初の特別活動加入率(生徒会を含む)は99%(兼部を含む延べ人数)を超えている。しかし、中途退部や自主性が低いなどの悩みを抱えている部も散見され、昨年度は47名の生徒が部活動を変更した。</p>	
達成目標	主たる活動において満足と回答する生徒の割合	部活動変更生徒数
	85%以上	30名以内
方 策	<p>・各行事ごとに、アンケートの集約を行い満足度をはかる。また、代議員等を通じて、事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努め、活動の活性化を図る。</p> <p>・教職員の体制を常に検証して、連携の強化と協力体制の維持に努める。</p> <p>・各集会や掲示板、生徒会便りを通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の士気を高める。</p> <p>・各部の部員数調査を年度当初と年度末に行い部活動を変更した生徒数を調べる。また、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。</p>	
達成度	満足+ほぼ満足で評価 ・運動会 満足51+41=92% ・尚美展 満足44.1+42.4=86.5% ・球技大会 満足40+43.7=83.7%	部活動変更生徒数 1学期→3学期(4/14~1/25) 30名退部(18名部活動変更)
具体的な取組状況	<p>・各行事の内容について、生徒会執行部による事前アンケートを全生徒に実施し、その結果を踏まえて計画を作成する。行事後、取り組みや満足度を全生徒を対象に取り、次年度への反省にする。</p>	<p>・全校で行っている表彰伝達や壮行会。</p> <p>・本校生徒の活躍について新聞に掲載された記事の紹介。</p> <p>・部活動顧問および職員による生徒指導。</p>
評 価	B ・運動会の満足度約92%(昨年比+1%) ・尚美展の満足度約86.5%(昨年比-3.5%) ・球技大会は今年度は2時間の授業の後行う形であり試合数も減少したが満足度はほぼ横ばいであった。(昨年比+1,2%)	A ・本年度、全体で30名の生徒が退部した。その内の18名が新たな部活動に変更した ・全体では、高い加入率となっている。(昨年比+4%)
学校関係者の意見		
次年度へ向けての課題	<p>・各行事での事前準備を十分に行う。</p> <p>・生徒会で各行事の反省点をまとめて次年度に申し送るとともに、改善点を考察する。</p> <p>・特活部の教職員間の連絡を密にし、仕事が良好に行えるような協力体制を構築する。</p>	<p>・2年次以降の転部者数の確認とその対応。</p> <p>・女子運動部の活性化。</p> <p>・的確な指導方針に基づく人格の形成。</p> <p>・1年生の途中退部者の減少を目指した面接等の充実。</p>

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

8 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成27年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -5-	
重点項目	PTA活動の活性化
重点課題	PTA役員会の活性化
現 状	<ul style="list-style-type: none">・PTA活動を煩雑で面倒なものとして捉えている保護者が多く、クラス役員でも全く参加されない方もおられる。・PTA各行事への一般会員の参加が少ない。・生徒を通じてPTA行事の案内をしているが、保護者に届かない場合がある。
達成目標	役員会の出席率 70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・役員間の連絡を密にして、各会合への参加を促すとともに、参加しやすく話しやすい持ち方を検討する。・PTA通信やホームページなどを利用して活動を積極的に発信する。・一斉メールを活用した情報の共有を推進する。・役員相互の和気あいあいとした雰囲気の醸成に努める。
達成度	・平成27年度 役員会出席率 67%(4回の平均)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・PTA会長や委員長を中心に役員間の連絡を密にして、各会合への参加を促すとともに、参加しやすく話しやすい会合になるよう心がけた。・役員会の開催連絡については、一斉メールの利用や担任の協力を得ながら、連絡が確実に保護者に届くように行った。
評 価	C <ul style="list-style-type: none">・役員会4回(正副会長会議、全体役員会)の平均で目標の70%には届かなかった。昨年度と比較すると1%上がっている。・各自の勤めの都合もあり大幅な出席率向上は難しいが、尚美展の模擬店などの行事では、ほぼ全員積極的に参加していただいております。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none">・保護者に連絡が届かないこともあるので、一斉メールを検討すればよい。・運動会や尚美展では出席者も多くよかった。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none">・クラス運営委員の役員会への出席を増やす。・PTA行事への一般会員の参加を増やす。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)